

第 4 章

GMS 諸国の航空貨物輸送の概況

花岡 伸也

要約：

大メコン圏の構成国を対象に、国際空港評議会のデータを基礎として各国の航空貨物輸送状況を整理し、その状況を概観した。大メコン圏諸国の中では、タイの国際航空貨物量が圧倒的に多く、なかでもスワンナプーム国際空港が多くを占めている。スワンナプーム国際空港では、2009 年から 2012 年まで増加傾向にあった輸入量が 2013 年に減少した。その理由の一つとして、政府の自動車購入奨励策 が 2012 年末に終了したことによる、自動車部品輸入量の減少が考えられる。一方、輸出は 2010 年をピークとして減少を続けているが、その原因は推察できなかった。タイ空港公社の運営する他の 5 空港についても、国際・国内航空貨物の近年の増減量は動的で不安定であり、その傾向をデータのみから判断することは難しい。カンボジア、ミャンマー、ベトナムでは、主要空港の国際航空貨物量が順調に増加傾向にあることがわかった。ラオスの航空貨物量は国際空港評議会のデータに含まれておらず、状況把握はできなかった。

キーワード：

大メコン圏、国際空港評議会(ACI)、タイ空港公社(AOT)、空港別航空貨物量、航空貨物量推移

はじめに

本章では、大メコン圏（Greater Mekong Sub-region: GMS）の構成国である、タイ、カンボジア、ミャンマー、ベトナム、ラオスを対象に、国際空港評議会のデータを基礎として各国の航空貨物輸送状況を整理し、その状況を概観する。

第1節 対象国の統計整備状況

表1は、GMS各国のインターネット上における航空貨物輸送統計の公開状況を、各国の航空当局および関連組織のウェブサイトからまとめたものである。

表1. GMS各国の統計整備状況

	担当省	航空当局名称	航空貨物の統計情報	航空局ウェブサイトのその他統計公開情報
タイ	Ministry of Transport	Department of Civil Aviation (DCA)	無	交通事故データ、顧客満足度調査
		Airports of Thailand (AOT)	有	空港別国際・国内線旅客数、空港別使用旅客機、空港別LCC利用状況
カンボジア	Ministry of Public Works and Transport	State Secretariat of Civil Aviation (SSCA)	無	-
ラオス	Ministry of Public Works and Transport	Department of Civil Aviation (DCA)	無	-
ミャンマー	Ministry of Transport	Department of Civil Aviation (DCA)	無	ヤンゴン・マンダレー空港旅客数推移
ベトナム	Ministry of Transport	Civil Aviation Authority of Vietnam (CAAV)	無	-

(出所)各国の航空当局のウェブサイトをもとに筆者作成。

表1の通り、GMS各国の航空貨物輸送に関する統計の公開状況は、タイを除き不十分である。タイは、主要6空港を一括して運営するタイ空港公社 (Airports of Thailand Public Co., Ltd.: AOT) が貨物の統計資料を公開しているものの、その他の国はインターネット上で情報を得られなかった。カンボジアは、航空局内の一組織である State Secretariat of Civil Aviation (SSCA) のウェブサイトに統計情報のリンク先があるが、リンクが機能していなかった。ミャンマー航空局のウェブサイトでは、ヤンゴン国際空港とマンダレー国際空港の国際・国内旅客数の推移が2012年まで公開されているが、貨物の情報はなかった。ベトナムは、航空貨物の統計情報が Civil Aviation Authority of Vietnam (CAAV) のウェブサイト上で公開されていなかった。ラオスは航空局のウェブサイトがなかった。

このように、GMS各国がインターネット上で公開している航空貨物の統計情報は乏しい。そこで、次節より国際空港評議会 (Airports Council International: ACI) が毎年出版している世界150カ国・約1900空港のデータを用いて、GMS各国の航空貨物輸送状況を空港単位で整理し、その状況を概観する。タイについては、AOTが公開している統計も含めて詳しく整理する。

第2節 GMS各国の航空貨物の現状

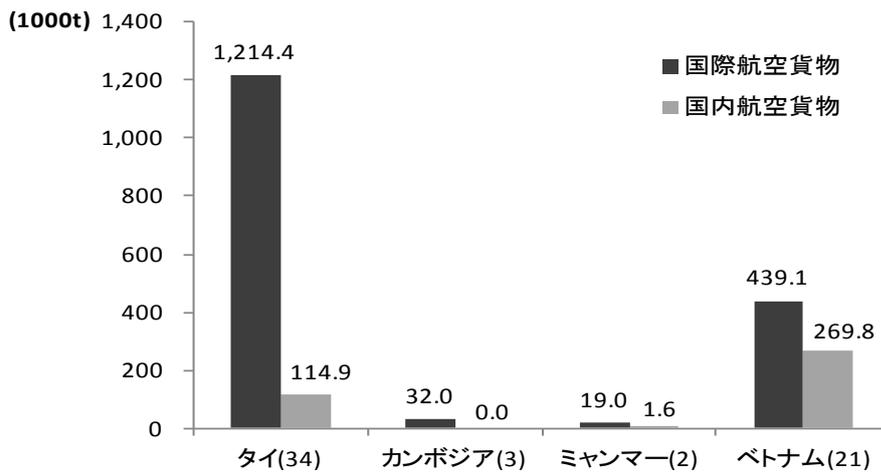
ACIは世界の空港の利益を促進し、空港運営を円滑化することを目的として設立された国際組織であり、毎年ACI Annual World Airport Traffic Report (以下、ACI報告書) を有料で

出版している。本節では、おもにこの報告書をもとにGMS諸国の航空貨物量を比較し、各国の航空貨物量の推移を空港別に整理する¹。

1. GMS 諸国の航空貨物量の比較

2013年度のGMS各国の航空貨物量と、その対象となる空港を図1と表2に示す。

図1.GMS各国の航空貨物量



(出所)ACI報告書(2014)より筆者作成。□

(注) 1)カッコ内の数字は資料に含まれる空港の数。

2)ラオスは、データなし。

¹ ACI(2006)からは2004年と2005年を、ACI(2008)からは2006年と2007年を、ACI(2010)からは2008年と2009年を、ACI(2011)以降からはそれぞれ前年のデータを、参照した。

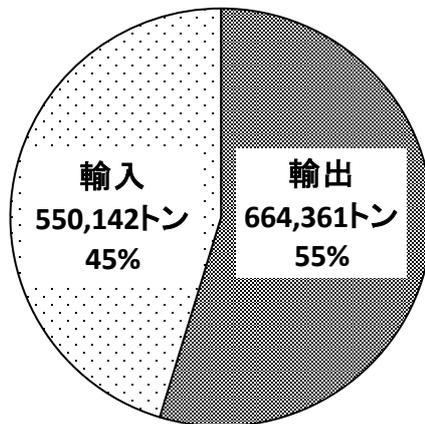
表2. Annual World Airport Traffic Reportでデータのある空港(2013年)

タイ(34)	ナコーンパノム(Nakhon Phanom,KOP)	トラート(Trat,TDX)	リエクオン国際(Dalat,DLI)
スワンナプーム国際(Bangkok,BKK)	ナコーンラーチャシーマー(Nakhon Ratchasima,NAK)	ウボンラーチャターニー(Ubon Ratchathani,UBP)	ディエンビエン(Dien Bien Phu,DIN)
ドンムアン国際(Bangkok,DMK)	ナコンシータマラート(Nakhon Si Thammarat,NST)	ウドンターニー国際(Udon Thani,UTH)	ドンホイ(Dong Hoi City,VDH)
ブリラム(Buriram,BFV)	ナン(Nan,NNT)	カンボジア(3)	ノイバイ国際(Ha Noi,HAN)
チェンマイ国際(Chiang Mai,CNX)	ナーティワート(Narathiwat,NAW)	プノンペン国際(Phnom Penh,PNH)	カットビ(Hai Phong,HPH)
チェンライ国際(Chiang Rai,CEI)	パイ(Pai,PYY)	シエムリアップ国際(Siem Reap,REP)	タンソンニャット国際(Ho Chi Minh City,SGN)
チュンボン(Chumphon,CJM)	ペッチャブリー(Phetchaburi,PHY)	シアンクビル国際(Sihanouk Ville,KOS)	フーバイ(Hue,HUI)
ハートヤイ国際(Hat Yai,HDY)	ピッサヌローク(Phitsanulok,PHS)	ミャンマー(2)	カムラン国際(Nha Trang,CXR)
ホアヒン(Hua Hin,HHQ)	プレー(Phrae,PRH)	ネピドー国際(Naypyidaw,NYT)	フーコック国際(Phu Quoc,PGC)
コンケン(Khon Kaen,KKC)	プーケット国際(Phuket,HKT)	ヤンゴン国際(Yangon,RGN)	プレイク(Pleiku,PXU)
サムイ(Ko Samui,USM)	ランーン(Ranong,UNN)	ベトナム(21)	チュンレイ国際(Quang Ngai,VCL)
クラビ(Krabi,KBV)	ローイエット(Roi Et,ROI)	バンメート(Buon Ma Thuot,BMV)	フーカット(Qui Nhon,UIH)
ラムパーン(Lampang,LPT)	サコンナコン(Sakon Nakhon,SNO)	カマウ(Ca Mau Province,CAH)	ラックジャー(Rach Gia,VKG)
ルーイ(Loei,LOE)	スコータイ(Sukhothai,THS)	カンター(Can Tho,VCA)	タインホア(Sao Vang,THD)
マホンソン(Mae Hong Son,HGN)	スラートターニー(Surat Thani,URT)	コンソン(Con Son,VCS)	ドンタック(Tuy Hoa,TBB)
メーソート(Mae Sot,MAQ)	トラン(Trang,TST)	ダナン国際(Da Nang,DAD)	ビン(Vinh,VII)

(出所)ACI報告書(2014)より筆者作成。

(注)各国のカッコ内の数は空港数。

図2.タイの国際航空貨物の輸出入割合(2013年)



(出所)AOT Traffic Statistic Report(2014)より筆者作成。

図1より、各国とも、国内貨物量よりも国際貨物量が多いことがわかる。GMS 諸国のなかではタイが圧倒的に多く、とくに国際航空貨物量が飛び抜けている。図2から、タイの国際航空貨物量のなかでは輸出量が輸入量を上回っていることがわかる。ベトナムは国土

が南北に長いことから国内航空貨物量はタイよりも多いが、国際航空貨物量は及ばない。国際と国内を合わせた総航空貨物量で比較すると、タイはベトナムの約 1.8 倍、カンボジア、ミャンマーのそれぞれ約 40 倍、約 60 倍以上である。以上をふまえ、次項ではデータのないラオスを除いた 4 カ国の状況を整理する。

2.GMS 各国の空港別貨物量

(1) タイ

ACI 報告書では、2013 年に国内 34 空港の情報が示されている(表 2 参照)。しかし、2012 年以前は、AOT の運営する 6 つの空港(スワンナプーム国際空港、ドンムアン国際空港、チェンマイ国際空港、チェンライ国際空港、ハートヤイ国際空港、プーケット国際空港)の情報しか示されていない。そこで、AOT の 6 空港の航空貨物量の推移と、その他 28 空港の 2013 年の航空貨物量を表 3 と表 4 に示す。なお、バンコクにあるスワンナプーム国際空港は 2006 年 9 月末に開港し、その際に国際線・国内線に限らず、ほぼすべての路線がドンムアン国際空港からスワンナプーム国際空港へ移されている。

表3. タイの6つの国営空港の航空貨物量推移

(単位:t)

	2004	2005	2006(*)	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
スワンナプーム国際(Bangkok.BKK)	総貨物量	-	-	169	1,220,001	1,173,084	1,045,194	1,310,146	1,321,853	1,345,490	1,236,223
	国際航空貨物量	-	-	169	1,178,000	1,140,300	1,003,185	1,259,181	1,265,016	1,289,759	1,189,362
	国内航空貨物量	-	-	-	31,721	23,006	38,992	49,708	55,080	53,921	45,491
	郵便	-	-	-	10,280	9,718	3,017	1,257	1,757	1,810	1,370
ドンムアン国際(Bangkok.DMK)	総貨物量	1,058,145	1,140,836	1,181,889	22,753	32,298	10,242	7,448	5,434	7,260	18,296
	国際航空貨物量	1,000,603	1,071,389	1,113,146	472	4,038	36	1	68	2,090	8,264
	国内航空貨物量	53,521	58,912	59,380	22,281	28,260	10,206	7,447	5,366	5,170	9,367
	郵便	4,021	10,538	9,363	-	-	-	-	-	-	665
チェンマイ国際(Chiang Mai.CNX)	総貨物量	24,533	24,463	26,116	22,869	21,394	18,050	20,844	21,723	19,628	18,292
	国際航空貨物量	806	507	303	337	523	115	110	157	207	217
	国内航空貨物量	23,699	23,923	25,796	22,532	20,726	17,801	20,299	21,327	19,421	17,912
	郵便	28	33	17	-	145	134	435	239	-	163
チェンライ国際(Chiang Rai.CEI)	総貨物量	4,982	5,090	4,309	2,741	2,426	2,386	2,794	4,306	4,755	4,440
	国際航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	国内航空貨物量	4,982	5,090	4,309	2,741	2,426	2,386	2,794	4,306	4,755	4,440
	郵便	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハートヤイ国際(Hat Yai.HDY)	総貨物量	9,892	11,017	10,177	9,786	10,787	11,774	13,809	15,733	16,389	13,605
	国際航空貨物量	123	4	3	-	-	-	-	-	-	-
	国内航空貨物量	9,333	10,655	10,005	9,591	10,614	11,477	13,621	15,476	16,204	12,294
	郵便	436	358	169	195	173	297	188	257	185	1,311
プーケット国際(Phuket.HKT)	総貨物量	21,645	15,185	16,347	18,005	17,660	18,178	27,788	26,158	34,055	33,893
	国際航空貨物量	8,112	2,780	2,893	4,746	5,003	4,983	10,354	8,891	15,257	16,559
	国内航空貨物量	13,382	12,306	13,384	13,269	12,657	13,195	17,434	17,267	18,798	17,234
	郵便	151	99	70	70	-	-	-	-	-	-

(出所)ACI報告書(2006,2008,2010,2011,2012,2013,2014)より筆者作成

(注)1)表中の[-]は空港がその年次のデータで考慮されていないことを示している。また表中の空欄は、その年次のデータで表記がないことを意味している。

2) (*)2006年のスワンナプーム国際空港とドンムアン空港はACI報告書ではデータが表3で記しているものを入れ替えて書かれていたが、スワンナプーム国際空港の開港が2006年9月であったという事実との整合性から、表3のように変えた。

表4. タイのその他空港の航空貨物量(2013年) (単位:t)

ブリ・ラム(Buriam,BFV)	総貨物量	8
	国内航空貨物量	8
コンケン(Khon Kaen,KKC)	総貨物量	1,957
	国内航空貨物量	1,895
	郵便	62
サムイ(Ko Samui,USM)	総貨物量	1,396
	国内航空貨物量	1,396
クラビー(Krabi,KBV)	総貨物量	1,675
	国内航空貨物量	1,675
ラムパーン(Lampang,LPT)	総貨物量	22
	国内航空貨物量	22
メーホンソン(Mae Hong Son,HGN)	総貨物量	50
	国内航空貨物量	50
ナコンシータマラート(Nakhon Si Thammarat,NST)	総貨物量	825
	国内航空貨物量	825
ナン(Nan,NNT)	総貨物量	8
	国内航空貨物量	8
ピッサヌローク(Phitsanulok,PHS)	総貨物量	252
	国内航空貨物量	252
サコンナコン(Sakon Nakhon,SNO)	総貨物量	9
	国内航空貨物量	9
スコークタイ(Sukhothai,THS)	総貨物量	57
	国内航空貨物量	57
	郵便	57
スラートターニー(Surat Thani,URT)	総貨物量	1,646
	国内航空貨物量	1,568
	郵便	78
トラン(Trang,TST)	総貨物量	337
	国内航空貨物量	337
トラート(Trat,TDX)	総貨物量	15
	国内航空貨物量	15
ウボンラーチャターニー(Ubon Ratchathani,UBP)	総貨物量	1,813
	国内航空貨物量	1,748
	郵便	65
ウドンターニー国際(Udon Thani,UTH)	総貨物量	2,827
	国内航空貨物量	2,827
	郵便	1

(出所)ACI報告書(2014)より筆者作成。

(注)下記の空港は貨物量の表記がない。

チュンポン(Chumphon,CJM),ホアヒン(Hua Hin,HHQ),ルーイ(Loei,LOE),メーソット(Mae Sot,MAQ)
 ナコンパノム(Nakhon PhanomKOP),ナコンラーチャシーマー(Nakhon Ratchasima,NAK)
 ナラーティワート(Narathiwat,NAW),パイ(Pai,PYY),ペッチャブリー(Phetchaburi,PHY)
 プレー(Phrae,PRH),ラノン(Ranong,UNN),ローイエット(Roi Et,ROI)

タイの国際航空貨物は、GMS 諸国の航空貨物輸送の中心である。国際航空貨物を取り扱う空港は AOT の 6 空港のみであり、スワンナプーム国際空港を利用した国際航空貨物量が多くを占める。AOT の 6 空港がその他の空港より総貨物量が多く、2013 年はスワンナプーム、プーケット、ドンムアン、チェンマイ、ハートヤイ、チェンライの順に大きいことがわかる。その他 28 空港のなかでは、ウドンターニー国際空港の貨物量が比較的多いものの、それでも AOT 所轄空港のなかで最小貨物量のチェンライ国際空港にも及ばない。

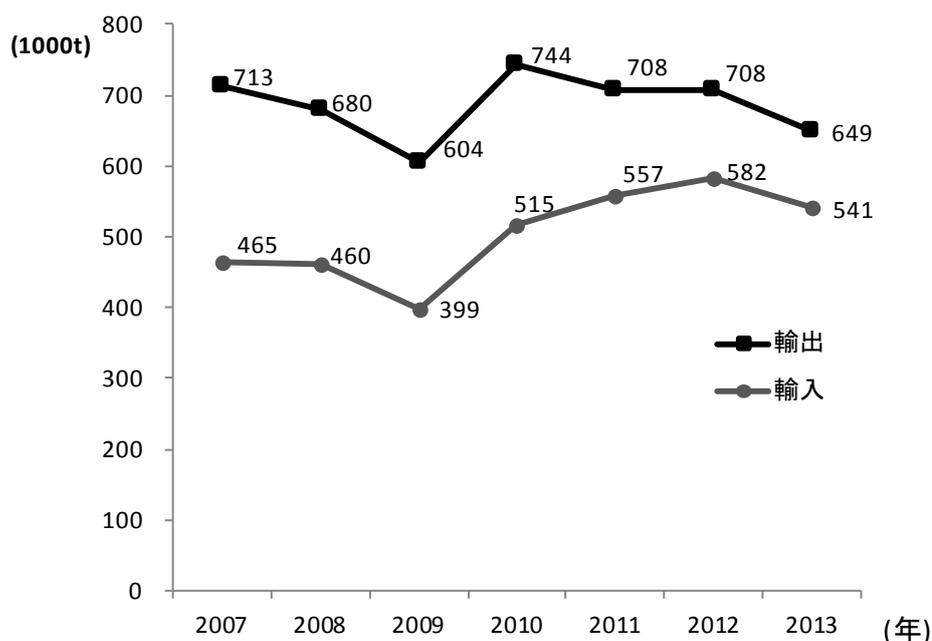
2013 年において、タイの航空貨物量のうち AOT の 6 空港が 99%以上を占めていること

から、以下ではこの 6 空港について、AOT 資料（AOT, 2014a; AOT, 2014b）から得られる情報も踏まえて、より詳しい状況を整理する。

① スワンナプーム国際空港

スワンナプーム国際空港は 2006 年 9 月 28 日に開港した。図 3 に、2007 年以降の国際航空貨物の輸出入量の推移を示す。リーマンショックの影響により、2009 年に大きく輸出入量が減少しているのがわかる。以降、2012 年まで増加傾向にあった輸入量が、2013 年に減少した。その理由のひとつとして、政府の自動車購入奨励策²が 2012 年末に終了したことによる、自動車部品輸入量の減少が考えられる。実際に、タイの自動車部品の輸入金額は、2013 年に昨年比で 5.5% 減少した（JETRO, 2014）。ただし、航空貨物の 2013 年の輸出入量減少に関しては、AOT 資料に品目別データがないこともあり原因を推察できなかった。これは、今後の統計整備の課題のひとつである。

図3.スワンナプーム国際空港の国際航空貨物の輸出入量変動

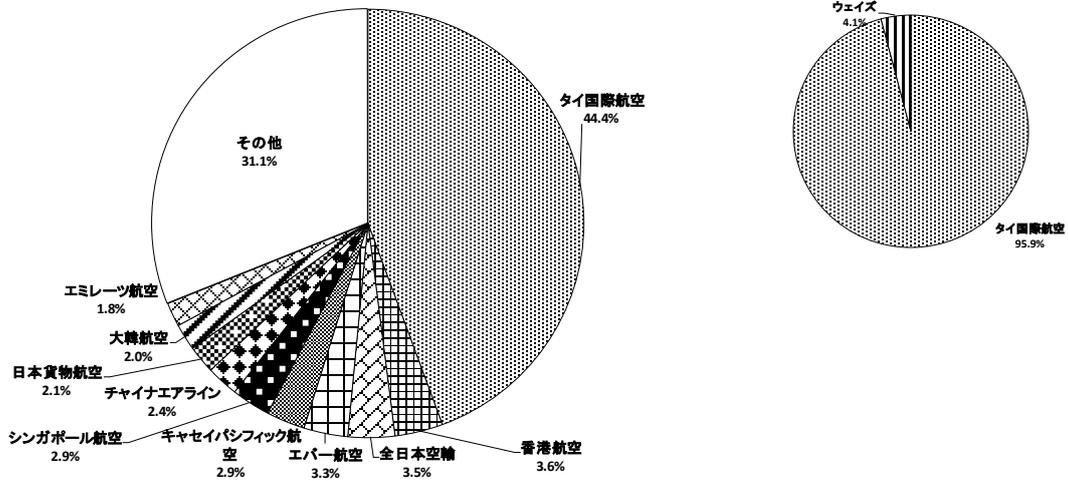


（出所）AOT Traffic Statistic Report(2014)より筆者作成。

図 4 より、スワンナプーム国際空港の航空貨物輸送量は、国際・国内航空貨物ともにタイ国際航空がもっとも多い。国内航空貨物は 9 割以上を占めている。国際航空貨物は 4 割がタイ国際航空によるもので、ついで香港航空、全日本空輸、エバー航空と続く。

² ファーストカー・バイヤー・プログラムと呼ばれ、自動車の新規購入者を対象に物品税を還付する制度。

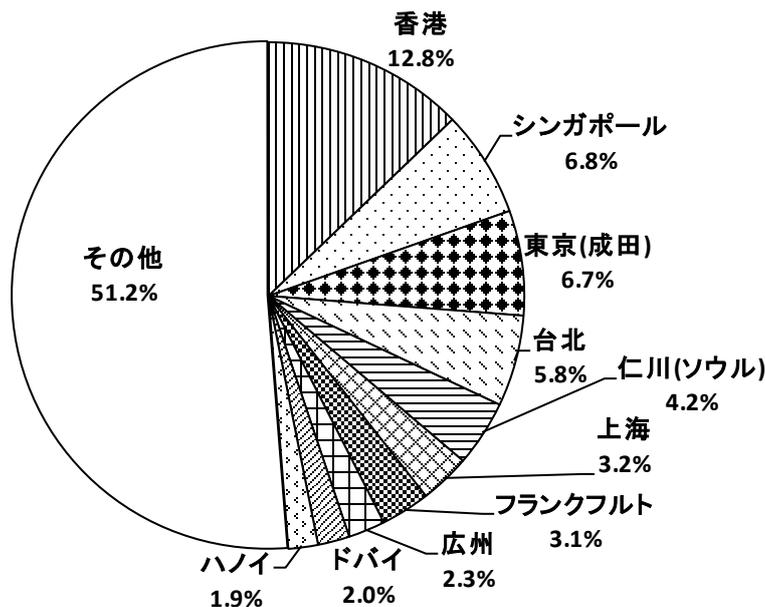
図4. スワンナプーム国際空港を航空貨物で利用する航空会社(2013年)
国際航空貨物(1,189,362トン)



(出所) AOT Traffic Summary Report (2014) より筆者作成。

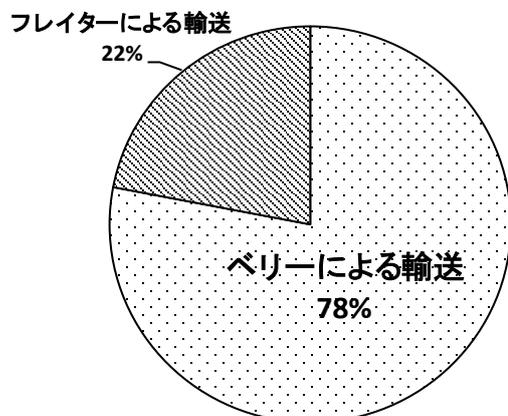
国際航空貨物の発着都市を図5に示す。香港が12.8%ともっとも大きく、シンガポール(6.8%)、東京(6.7%)、台湾(5.8%)とアジアの大都市が中心である。ただし、図4と図5は共に航空貨物の出発地と到着地を示しているわけではなく、最初の到着地あるいは最後の出発地に基づいていることから、その解釈に注意は必要である。これはAOTの他の5空港においても同様である。また、図6で示されている通り、国際航空貨物の78%はベリ一輸送で運ばれている。

図5. スワンナプーム国際空港の国際航空貨物の発着都市(2013年)



(出所) AOT Traffic Statistic Report (2014) より筆者作成。

図6. スワンナプーム国際空港の輸送機による航空貨物量と割合(2013年)



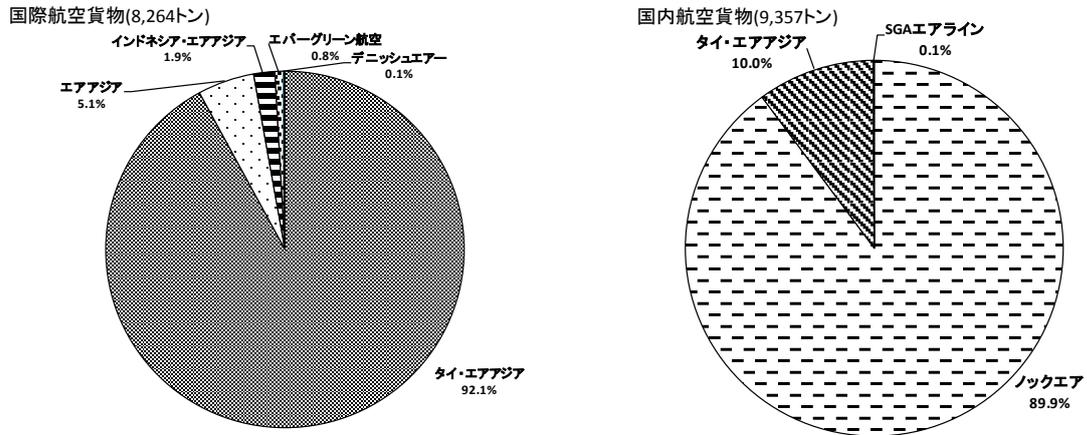
ベリーによる輸送(t)	925,667
フレイターによる輸送(t)	264,957
総貨物量(t)	1,190,624

(出所) AOT Traffic Summary Report(2014)より筆者作成。

② ドンムアン国際空港

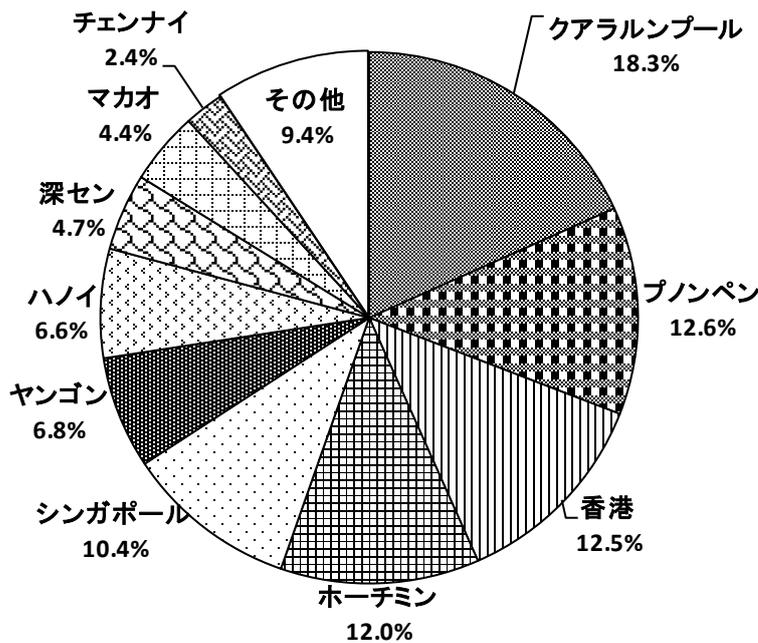
ドンムアン国際空港の総航空貨物量はプーケットについて3番目であるが、近年の国際航空貨物量の伸びは著しく、2012年から2013年にかけて約4倍に増加した。2006年のスワンナプーム空港の開港以来、エアアジアグループ(エアアジアとタイ・エアアジア)はこの新空港を拠点として使ってきたが、タイ政府からの強い要望もあり、2012年10月にドンムアン国際空港に全路線を一斉に移転した。ドンムアン空港の貨物量が2013年になって大きく増加したのは、これが主たる理由である(旅客数も同じく急増している)。図7の通り、国際航空貨物量の92.1%がタイ・エアアジア、国内航空貨物量の89.9%がノックエアと、同空港を拠点としているLCCが大部分を占めている。図8より、国際航空貨物の発着都市としてもっとも多いのはクアラルンプールであり、つづいてアジアの都市が並んでいるのは旅客便のベリー輸送で貨物が運ばれているからである。そのため、スワンナプーム国際空港とは異なり、欧州の都市は含まれていない。

図7. ドムアン国際空港を航空貨物で利用する航空会社(2013年)



(出所)AOT Traffic Summary Report(2014)より筆者作成。

図8. ドムアン国際空港の国際航空貨物の発着都市(2013年)



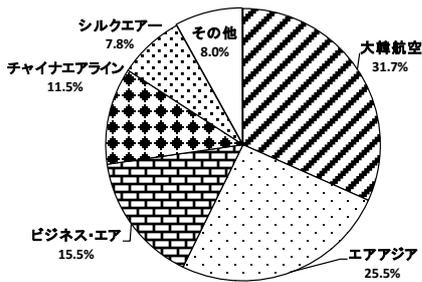
(出所)AOT Traffic Statistic Report(2014)より筆者作成。

③チェンマイ国際空港

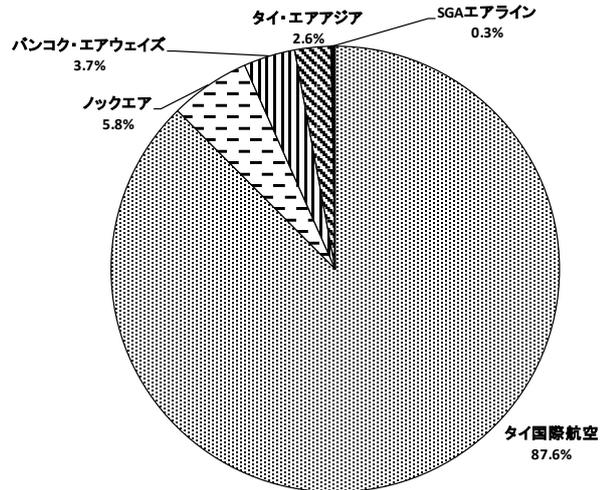
チェンマイ国際空港の特徴は国内航空貨物量が多い点にあり、国際航空貨物量の約80倍となっている。チェンマイはタイ北部最大の都市であり、バンコク間の貨物輸送機関のひとつとして航空が重要な役割を果たしているのである。そのため、国内航空貨物量ではスワンナプーム国際空港について2番目に多い。国際・国内ともに、2007年以降、上下しながらも減少傾向にある。利用している。図9に示した利用航空会社において、国内航空

貨物はタイ航空が 87.6%と多くを占めている。国際航空貨物ではばらつきがあり，上位から大韓航空（31.7%），エアアジア（25.5%），ビジネス・エア（15.5%）となっている。図 10 に示す国際航空貨物の発着都市は，航空会社の拠点を反映する形となっている。

図9. チェンマイ国際空港を航空貨物で利用する航空会社(2013年)
国際航空貨物(217トン)

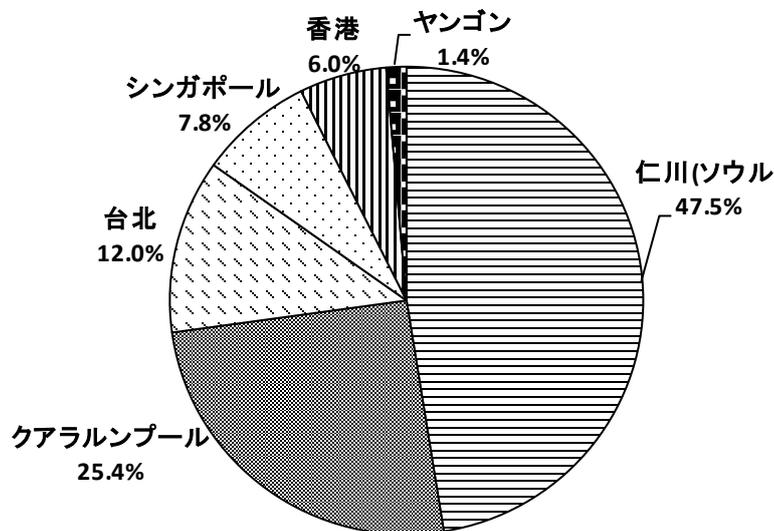


国内航空貨物(17,912トン)



(出所)AOT Traffic Summary Report(2014)より筆者作成。

図10. チェンマイ国際空港の国際航空貨物の発着都市(2013年)

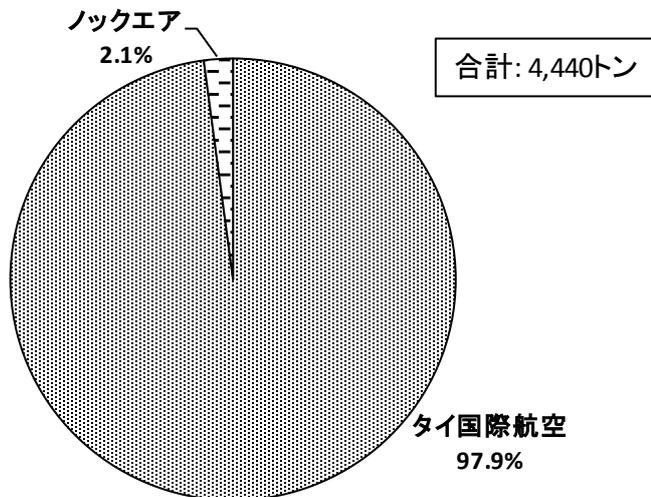


(出所)AOT Traffic Statistic Report(2014)より筆者作成。

④チェンライ国際空港

チェンライ国際空港では国際航空貨物の取り扱いが記録されておらず，国内航空貨物量も6つの空港のなかで一番少ない。チェンライ国際空港を利用する国内航空貨物のほぼ全てが，図 11 に示す通り，タイ国際航空によって運ばれている。

図11. チェンライ国際空港を国内航空貨物で利用する航空会社(2013)

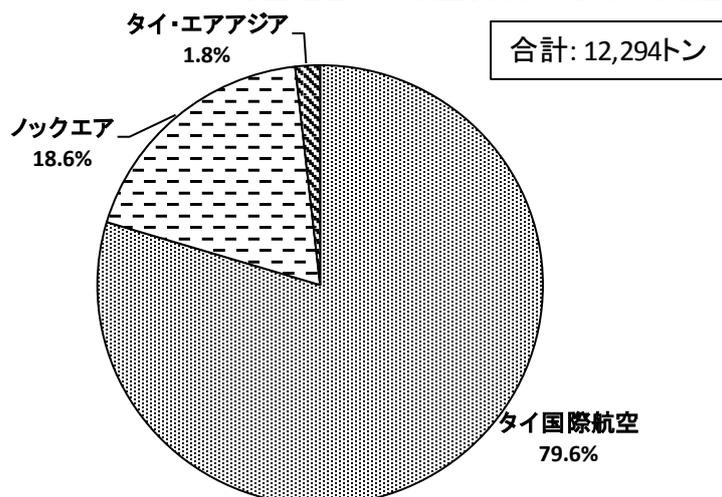


(出所)AOT Traffic Summary Report(2014)より筆者作成。

⑤ハートヤイ国際空港

ハートヤイ国際空港も国際航空貨物の取り扱いが記録されておらず、国内航空貨物が主である。2013年の取扱量は2012年から下がっている。ハートヤイ国際空港を利用する国内航空貨物の約8割が、図12に示す通り、タイ国際航空によって運ばれている。

図12. ハートヤイ国際空港を国内航空貨物で利用する航空会社(2013年)

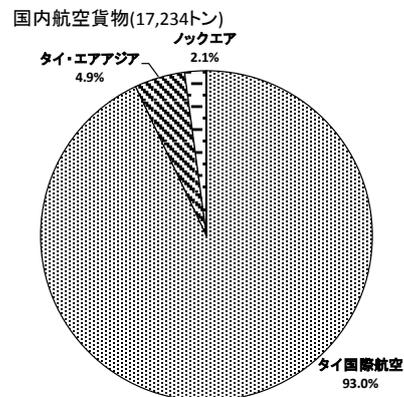
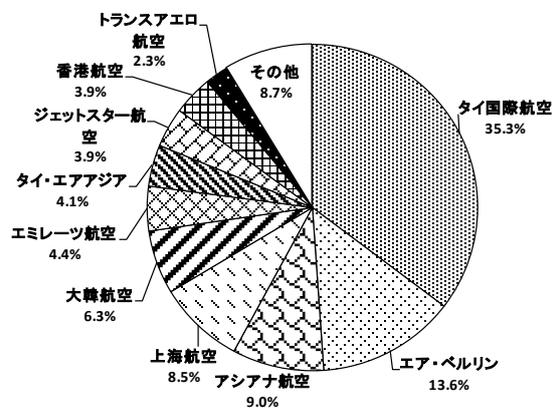


(出所)AOT Traffic Summary Report(2014)より筆者作成。

⑥プーケット国際空港

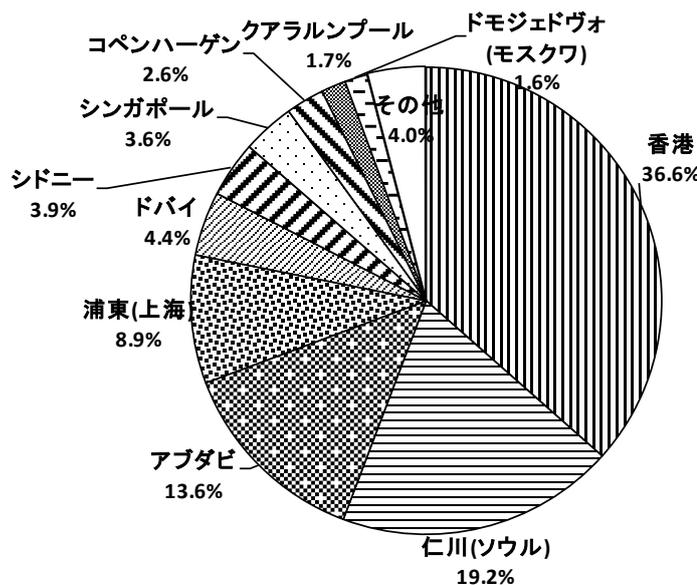
プーケット国際空港は、総航空貨物量が6空港のなかで2番目である。国際航空貨物が増加傾向にあり、2013年には国内航空貨物量に追いつきそうな所まで増えている。国際航空貨物の利用航空会社は、図13の通り、タイ国際航空(35.3%)、エア・ベルリン(13.6%)、アジアナ航空(9.0%)という順であり、国際航空貨物の発着都市は、図14の通り、香港(36.6%)、仁川(19.2%)、アブダビ(13.6%)となっている。いずれも、プーケット国際空港における旅客便の方面の多様性を反映している。国内航空貨物は、タイ国際航空が9割以上を占めている。

図13. プーケット国際空港を航空貨物で利用する航空会社(2013年)
国際航空貨物(16,559トン)



(出所)AOT Traffic Summary Report(2014)より筆者作成。

図14. プーケット国際空港の国際航空貨物の発着都市(2013年)



(出所)AOT Traffic Statistic Report(2014)より筆者作成。

(2) カンボジア

ACI 報告書には、カンボジアの主要空港であるプノンペン国際空港とシェムリアップ国際空港の情報がある。2013 年の報告書にはシアヌークビル国際空港も含まれているが、航空貨物輸送量には表記がない。よって、主要 2 空港について表 5 に示す。

表5. カンボジアの主要2空港の航空貨物量推移 (単位:t)

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
プノンペン国際 (Phnom Penh,PNH)	総貨物量	20,064	23,083	27,952	26,877	23,258	14,691	19,763	19,389	29,334	31,122
	国際航空貨物量	20,047	23,080	27,921	26,805	23,103	14,641	19,761	19,389	28,657	31,122
	国内航空貨物量	17	3	31	72	155	50	2			
	郵便									677	
シェムリアップ国際 (Siem Reap,REP)	総貨物量	-	-	-	122	149	114	528	200	578	926
	国際航空貨物量	-	-	-	80	130	100	526	200	578	926
	国内航空貨物量	-	-	-	40	19	14	2			
	郵便	-	-	-							

(出所)ACI報告書(2006,2008,2010,2011,2012,2013,2014)より筆者作成。

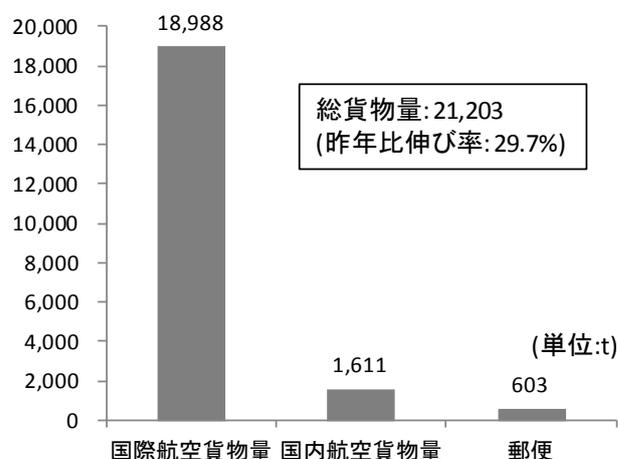
(注)表中の[-]は空港がその年次のデータで考慮されていないことを示している。また表中の空欄は、その年次のデータで表記がないことを意味している。

カンボジアでは、プノンペン国際空港、シェムリアップ国際空港とも、ほとんど国内航空貨物は輸送していない。カンボジアは国土が小さく、空港数も少ないからである。航空貨物量は、プノンペン国際空港の航空貨物量がシェムリアップ国際空港の 30 倍以上であり、プノンペン国際空港がカンボジアの航空貨物輸送の中心である。両空港とも、ここ 3 年間の航空貨物量の増加は著しく、今後も増加することが見込まれる。

(3) ミャンマー

ミャンマーに関しては、ACI 報告書のなかでもデータは少ない。航空貨物量は、2013 年のデータのみ (ACI, 2014) がある。しかし、ミャンマー最大の都市ヤンゴンにあるヤンゴン国際空港のみであり、第二の都市であるマンダレー空港や首都のネーピードー空港については、残念ながらデータがない。

図15.ヤンゴン国際空港の航空貨物量(2013年)



(出所)ACI報告書(2014)より筆者作成。□

図 15 より、ヤンゴン国際空港では、国内航空貨物量よりも国際航空貨物量が 10 倍以上あり、国際航空貨物が中心である。総貨物量は 2012 年比で 2013 年は 29.7%³増加しているため、今後も需要が伸びることが見込まれる。

マンダレー国際空港は、近年航空貨物のハブ拠点化を推進する動きがある。マンダレー国際空港は 2000 年 9 月に開港した。大型貨物専用機の離発着が可能な 4276 メートル(14000 フィート)の滑走路を持っており、現在は国内線の旅客ハブ空港として、旅客数が年々増加している。JALUX、三菱商事、ミャンマー大手民間企業グループである SPA グループの YOMA Development Group Ltd. (以下、YOMA) 社の 3 社コンソーシアムは、ミャンマー航空局との間でマンダレー国際空港の 30 年間の事業権譲渡契約を締結し、今後、ミャンマー航空局からの事業移管を経て、2015 年 3 月 頃に運営開始の予定である。ミャンマー国内に、3 社合弁で設立した空港運営事業会社「MC-Jalux Airport Services Co, Ltd.」(JALUX 45.5%、三菱商事 45.5%、YOMA 9%) が、ターミナルビルや滑走路など空港関連施設の補修改善、維持管理を含む、同空港の運営を行う予定となっている⁴。本件は日本企業が海外において 100%民間資本で取り組む初の空港事業民営化プロジェクト (PPP) であり、ミャンマーの航空貨物輸送に対し、日系企業の貢献が期待される事例である。

(4) ベトナム

ベトナムも、タイと同様に ACI 報告書は年次によってデータのある空港数にばらつきがある。2014 年の ACI 報告書では、表 2 で示した通り、21 空港が対象となっている。しかし、2012 年はベトナム全空港のデータ自体がなく、また 2011 年は 5 空港しか対象となっていない。そこで、一部データが不明であることを踏まえた上で、過去 10 年間の ACI 報告書に含まれているすべてのデータを表 6 に示し、航空貨物量の推移を整理する。

³ ACI(2014)に昨年からの増加率が書かれており、それを引用している。ACI(2013)には、2012 年のヤンゴン空港のデータは含まれていない。

⁴ 航空管制など一部業務を除く。

表6. ベトナムの空港の航空貨物量推移 (単位:t)

		2004(18)	2005(18)	2006(10)	2007(10)	2008(5)	2009(5)	2010(5)	2011(5)	2012(0)	2013(21)
バンメート(Buon Ma Thuot,BMV)	総貨物量	45	36	23	63	-	-	-	-	-	1,427
	国内航空貨物量	45	36	22	63	-	-	-	-	-	1,427
カマウ(Ca Mau Province,CAH)	総貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
	国内航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
カントー(Can Tho,VCA)	総貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	国内航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
コンソン(Con Son,VGS)	総貨物量	-	-	-	2	-	-	-	-	-	416
	国内航空貨物量	-	-	-	2	-	-	-	-	-	416
ダナン国際(Da Nang,DAD)	総貨物量	5,851	7,241	-	-	-	-	-	-	-	16,062
	国際航空貨物量	275	35	-	-	-	-	-	-	-	1,202
	国内航空貨物量	4,811	6,283	-	-	-	-	-	-	-	14,860
	郵便	765	923	-	-	-	-	-	-	-	-
リエクオン国際(Dalat,DLI)	総貨物量	84	148	179	322	-	-	-	-	-	1,881
	国内航空貨物量	62	140	175	320	-	-	-	-	-	1,881
	郵便	22	8	4	2	-	-	-	-	-	-
ディエンビエン(Dien Bien Phu,DIN)	総貨物量	61	62	72	82	86	95	80	49	-	44
	国内航空貨物量	61	62	72	82	86	95	80	49	-	44
ドンホイ(Dong Hoi City,VDH)	総貨物量	-	-	-	-	-	5	27	61	-	139
	国内航空貨物量	-	-	-	-	-	5	27	61	-	139
ノイバイ国際(Ha Noi,HAN)	総貨物量	79,408	94,326	110,314	124,454	139,647	162,746	216,901	252,046	-	348,519
	国際航空貨物量	29,271	34,734	42,525	50,190	61,502	70,276	106,656	132,676	-	231,490
	国内航空貨物量	48,181	57,868	66,492	73,135	76,895	90,998	108,464	117,106	-	117,029
	郵便	1,595	1,723	1,297	1,129	1,250	1,471	1,781	2,264	-	-
カトビ(Hai Phong,HPH)	総貨物量	1,579	1,442	1,262	1,915	3,263	4,116	4,695	4,936	-	4,318
	国際航空貨物量	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
	国内航空貨物量	1,579	1,442	1,262	1,908	3,263	4,116	4,695	4,936	-	4,318
	郵便	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タンソンニャット国際(Ho Chi Minh City,SGN)	総貨物量	183,929	196,208	220,047	254,753	-	-	-	-	-	374,822
	国際航空貨物量	127,879	131,085	145,653	173,503	-	-	-	-	-	256,255
	国内航空貨物量	53,208	61,826	71,901	78,893	-	-	-	-	-	119,567
	郵便	3,022	3,297	2,493	2,357	-	-	-	-	-	-
フーバイ(Hue,HUI)	総貨物量	691	715	-	-	-	-	-	-	-	998
	国際航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	国内航空貨物量	690	692	-	-	-	-	-	-	-	998
	郵便	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-
カインホア(Khanh Hoa,NHA)(*)	総貨物量	795	1,345	-	-	-	-	-	-	-	-
	国内航空貨物量	722	1,285	-	-	-	-	-	-	-	-
	郵便	74	61	-	-	-	-	-	-	-	-
カムラン国際(Nha Trang,CXR)	総貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5,655
	国際航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	190
	国内航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5,465
フーコック国際(Phu Quoc,PQC)	総貨物量	423	551	580	735	-	-	-	-	-	965
	国内航空貨物量	423	545	573	722	-	-	-	-	-	965
	郵便	-	6	7	13	-	-	-	-	-	-
フレイク(Pleiku,PKU)	総貨物量	100	135	-	-	-	-	-	-	-	158
	国内航空貨物量	43	58	-	-	-	-	-	-	-	158
	郵便	56	77	-	-	-	-	-	-	-	-
チュウ・レイ国際(Quang Ngai,VCL)	総貨物量	-	6	-	-	-	-	-	-	-	45
	国内航空貨物量	-	6	-	-	-	-	-	-	-	45
フーカット(Quy Nhon,UIH)	総貨物量	52	25	-	-	-	-	-	-	-	844
	国内航空貨物量	52	25	-	-	-	-	-	-	-	844
ラックジャー(Rach Gia,VKG)	総貨物量	-	39	41	99	-	-	-	-	-	50
	国内航空貨物量	-	39	40	97	-	-	-	-	-	50
	郵便	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
タインホア(Sao Vang,THD)	総貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	国内航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ドンタック(Tuy Hoa,TBB)	総貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	84
	国内航空貨物量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	84
ビン(Vinh,VII)	総貨物量	61	110	50	119	188	420	986	1,614	-	1,501
	国内航空貨物量	61	110	50	119	188	420	986	1,614	-	1,501

(出所) ACI報告書(2006,2008,2010,2011,2012,2013,2014)より筆者作成。

(注) 1) 表中の[-]は空港がその年次のデータで考慮されていないことを示している。また表中の空欄はその年次のデータで表記がないことを意味している。

2) 年次の横のカッコ内はその年次で考慮している空港の数。

3) (*)カインホア空港は2004年、2005年のみ考慮されているため、表2には記載していない。

2008年から2012年までは欠損データが多い、つまり考慮されている空港が少なく、またホーチミンのタンソンニャット国際空港のデータもない。2013年のデータに注目すると、国際航空貨物を取り扱う空港は少ないことがわかる。具体的には、ダナン国際空港(ダナン)、ノイバイ国際空港(ハノイ)、タンソンニャット国際空港(ホーチミン)、カムラン国際空港(ニャチャン)といった主要都市にある空港だけである。また、国際航空貨物・国内航空貨物量ともに、ノイバイ国際空港とタンソンニャット国際空港が多くの割合を占めてい

る。両国際空港の合計が、国際航空貨物・国内航空貨物量ともに全国合計の9割以上を占めていることから、今後も両空港の航空貨物の重要性は高いことは間違いない。タンソニヤット国際空港の正確な推移が不明なものの、両空港ともに国際・国内航空貨物量は増加し続けている。ノイバイ国際空港は、2004年比で2013年の国際航空貨物量が約8倍、国内航空貨物量約2.4倍、タンソニヤット国際空港は国際航空貨物量が約2倍、国内航空貨物量が2.2倍と、ノイバイ国際空港の国際航空貨物量の増加がめざましい。ノイバイ国際空港は、2004年時点では総貨物量がタンソニヤット空港の半分以下であり、とくに国際航空貨物量は遠く及ばなかったが、2013年には両者に大きな差は無くなっている。

まとめ

本報告では、GMS 諸国の航空貨物に関するインターネット上の統計整備状況と、空港別貨物量を把握した。インターネット上では、政府当局が統計を公開している国はタイしかないことが明らかになった。しかし、その他の国でも紙媒体による統計情報が存在している可能性は高いことから、今後、現地調査により確認する必要がある。

ACI 報告書より、GMS 諸国ではタイの国際航空貨物量が圧倒的に多く、なかでもスワンナプーム国際空港が多くを占めていることがわかった。2015 年末の ASEAN 経済共同体創設後、単一市場・単一生産拠点という目的に従い、タイと周辺国との陸路輸送の越境抵抗が減少し、陸上輸送量の増加が見込まれている。GMS 域内の陸路輸送が、タイの国際航空貨物輸送に与える影響は定かではないものの、両輸送機関の競争は起こるであろう。タイでは、主要空港貨物量・利用航空会社・発着地に関する時系列データはあったが、品目別の輸送機関データはなかった。他の輸送機関との競争を見るには、品目別・輸送機関別のデータ整備が求められる。

AOT 資料より、スワンナプーム国際空港だけでなく、AOT の運営するその他 5 空港においても、国際・国内航空貨物の比率や増減量は動的で不安定であり、その傾向を確定的に判断することが難しいことも明らかになった。一方で、カンボジア、ミャンマー、ベトナムでは、主要空港を中心として国際航空貨物量が増加傾向にある。これらの国際航空貨物輸送量が増すなかで、空港単位の航空貨物量しかデータとして存在しないのは、決して十分とは言えない。タイの AOT のように利用航空会社や発着地、加えて品目別データの整備が望まれる。さらに、路線別の貨物量も重要な情報である。ミャンマーのマンダレー国際空港のように、日系企業が投資する事例が今後も見込まれるため、その必要性は急務である。

ラオスは航空局のウェブサイトがなく、ACI 報告書にもデータがなかった。内陸国であることや経済規模から考えて、航空貨物量が一定数に達するのは将来的な話であるものの、

地理的には今後、GMS 域内輸送のハブとなるポテンシャルを秘めている国でもある。航空貨物輸送状況の統計整備およびその公開が求められる。

[参考文献]

<外国語文献>

- Airports Council International (ACI). 2006. “Worldwide Airport Traffic Report, 2005”, Switzerland
——2008. “World Airport Traffic Report, 2007”, Switzerland
——2010. “World Airport Traffic Report, 2009”, Switzerland
——2011. “World Airport Traffic Report, 2010”, Canada
——2012. “World Airport Traffic Report, 2011”
——2013. “ACI Annual World Airport Traffic Report, 2012”
——2014. “ACI Annual World Airport Traffic Report, 2013”
Airports of Thailand (AOT). 2014a. “AOT Traffic Statistic Report, 2013”
——2014b. “AOT Traffic Summary Report, 2013”

<ウェブサイト>

- タイ DCA: <http://www.aviation.go.th/en/index.php>
タイ AOT: <http://airportthai.co.th/main/en/1115-air-transport-statistic>
カンボジア SSCA: <http://www.civilaviation.gov.kh/en/>
ミャンマー DCA: <http://www.dca.gov.mm/index.php/air-transport/statistical-data>
ベトナム CAAV: <http://www.caa.gov.vn/eDefault.aspx?tabid=8>
ACI: <http://www.aci.aero/>
JETRO : タイ輸入統計品目別, http://www.jetro.go.jp/world/asia/th/stat_05/
三菱商事: <http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/pr/archive/2013/html/0000022138.html>